

# 館野遺跡（たてのいせき）

所在地：小美玉市竹原字館野209番3ほか

調査期間：平成30年4月1日～7月31日 調査面積：4,713㎡

委託者：茨城県水戸土木事務所

調査原因：石岡小美玉スマートICアクセス道路整備事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（小美玉事務所）

TEL：029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

## 1 遺跡と調査区の位置

館野遺跡は、小美玉市の南西部に位置し、園部川左岸の標高約25mの舌状台地上に立地しています。今回の調査は、石岡小美玉スマートICアクセス道路整備事業に伴うもので、調査区は台地を東西に横断するように位置しています。

## 2 調査の概要

当遺跡の調査は今回が初めてで、現在までに縄文時代中期（約4,500年前）の竪穴建物跡5棟、袋状土坑11基、遺物包含層1か所、古墳時代の竪穴建物跡5棟などを確認しました。縄文時代中期の竪穴建物跡の内2棟は、2段掘り込みの建物跡です。また、袋状土坑はその断面がフラスコ形であることから、堅果類などの貯蔵用と考えられています。古墳時代の竪穴建物跡は、前期（約1,700年前）と後期（約1,400年前）のものが確認できました。古墳時代後期の竪穴建物には竈が設けられています。出土した遺物は縄文土器（深鉢）、石器（石鏃・石匙・磨製石斧・敲石・磨石・凹石）、土師器（壺・甕・埴・高坏）、須恵器（蓋）、鍛冶関連遺物（鉄滓）などです。

## 3 調査の成果

今回の調査で縄文時代中期と古墳時代の集落跡の一部を確認できました。縄文時代中期の集落構造の特徴は、貯蔵用の袋状土坑が調査区東側を中心に、住まいの竪穴建物が調査区西側にまとまって構築されていることです。こうしたことから、集落の広がりや各施設の配置を知る手がかりが得られました。また、古墳時代の集落跡は大きく2時期に分かれ、当地が居住拠点として断続的に利用されてきたことが分かりました。今回の調査した範囲は道路幅のため狭く、各時代の集落跡の全貌は不明ですが、小美玉市域の原始古代の歴史や暮らしぶりを考える上で貴重な資料が得られました。



館野遺跡の位置（『茨城県デジタルマップ』より）



館野遺跡を西から望む（写真の奥に茨城空港）



調査区東側の竪穴建物跡や袋状土坑

この資料は、調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。資料の引用・掲載はご遠慮願います。



縄文時代中期の袋状土坑の調査



底面から倒立して出土した深鉢



古墳時代前期の竪穴建物跡



床面から壊れた状態で出土した罎や高坏

縄文時代中期の竪穴建物跡の広がり

縄文時代中期の袋状土坑の広がり

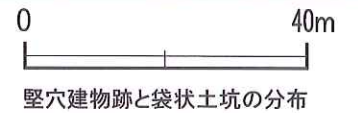
縄文時代中期の袋状土坑の広がり

遺物包含層  
(縄文時代前期)

現在調査中



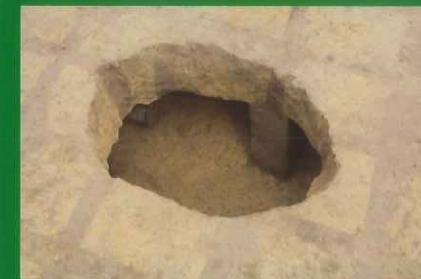
竹原地区には  
縄文時代の古く  
から人々が暮ら  
していたんだよ!



- 凡例
- 調査区
  - 竪穴建物跡 (縄文時代中期)
  - 竪穴建物跡 (古墳時代前期)
  - 竪穴建物跡 (古墳時代後期)
  - 竪穴建物跡 (未調査)
  - 袋状土坑 (縄文時代中期)



縄文時代中期の竪穴建物跡



縄文時代中期の袋状土坑



底面に横たわる深鉢と敲石